

平成 27 年度の主な教育施策の取組状況について

1 学力・体力の向上（継続・拡充）

「千歳市学力向上検討委員会」における全国学力・学習状況調査の結果分析や「学習規律の徹底」、「まとめの10分の確保」などの提言のほか、「授業改善案」や「学習プリント」の作成。「授業スタンダード作成部会」、「ICT機器を活用した授業改善案作成部会」、「QU検査活用事例作成部会」の設置による様々な研究協議の実施。「学習支援員」を4名増員し、14名体制（13校、北陽小は2名）に拡充、活動時間の拡張、報酬の引上げ。小学校の習熟度別少人数指導の推進。

「ハイパーQU検査」を年1回実施から年2回（6月、11月）実施に拡大。「ハイパーQU検査」の結果を有効活用するため、開発者である河村教授を招いた全教員対象の「ハイパーQU検査研修会」の開催。

長期休業中の千歳科学技術大学の学生ボランティアによる学習サポートの推進、ALTによる英語学習サポートの推進、千歳科学技術大学と連携したeラーニングの促進。

「新体力・運動能力調査」の実施、実践事業協力校（末広小、北陽小）による新体力テストの実施方法の改善。コーディネーション運動の促進。

「千歳市家庭生活宣言」の実施。規則正しい生活習慣、携帯電話・スマートフォン・ゲーム機のルールづくり。千歳市PTA連合会と連携した取組の促進。

2 ICT機器を活用した教育の推進（拡充）

「デジタル教科書」を全小学校の全学年に整備（4教科・書写・地図 7月末整備）教員対象の電子黒板を活用したデジタル教科書の活用研修の実施。

学校におけるタブレットの活用方法の検証（モデル校 北陽小学校）。

3 学校指導体制の充実（拡充）

教頭職の割愛による「学校指導担当主幹」の配置。学校指導主事を2名体制に強化。

4 教職員住宅の新たな整備方針の推進（新規）

老朽化した管理職住宅を順次解体し1校1棟の整備とする方針決定。桜木小の教頭宅の建替、校長宅の解体。

北栄住宅の用途廃止（3月末）。一般教職員住宅の整備方針の策定。

5 学校施設の整備（継続）

講堂等の非構造部材耐震化工事として、千歳小、高台小、日の出小、信濃小、千歳中青葉中、向陽台中の実施。

大規模改修工事として、向陽台小、向陽台中の実施。

放送設備の更新工事として、緑小、日の出小、向陽台中、北斗中の実施。

6 校務支援システムのモデル校実施（新規）

28年度の全小中学校導入に向け、千歳小、北進小、信濃小、千歳中、勇舞中、北進中の6校のモデル校導入。

7 フッ化物洗口の実施（新規）

児童のむし歯予防を図るため、全小学校の全学年児童を対象に週1回、フッ化物洗口の実施（9月から開始）。

8 就学援助費の対象費目拡大（拡充）

準要保護世帯の児童生徒に対して、「クラブ活動費、生徒会費、PTA会費」の3項目の対象拡大。

9 特別支援教育支援員の増員（拡充）

通常学級に在籍する学習障がいなどの児童生徒に対する支援を充実するため、「特別支援教育支援員」の2名増員。

10 いじめ防止・不登校対策の推進（拡充）

「スクールカウンセラー」の配置校を3校増加し、小規模校を除く全小学校へ配置。
「スクールソーシャルワーカー」を新たに、教育委員会に1名配置。

11 イングリッシュキャンプの実施（新規）

国際理解と国際感覚の育成のため、小学生を対象としたデイキャンプの開催。

12 学校支援地域本部事業の対象校拡充（拡充）

支援対象校の7校増加（17校）、コーディネーターの1名増加（2名体制）。

13 キウス周堤墓群の活用・普及啓発（継続）

キウス周堤墓群の公開活用を図るため、新たに見学者用簡易トイレの設置と表土層の保護工事の実施。

縄文遺跡のキャラクターの愛称募集の実施（「ママチくん」に決定）。

14 新給食センター整備事業の推進（新規）

新給食センター整備事業費として、移転新築に向けた先進地視察などの調査検討の着手。内部検討会議における新センターの機能等の検討。

15 学校司書の配置（継続）

学校司書6名により、全小中学校へ曜日を特定した通年配置。